

「対話と実行」座談会（H20.8.1(金) 日高村）の概要

知事あいさつ

高知県の財政（平成20年度）のパンフレット及び「学ぶ力を育み心に寄りそう緊急プラン」（以下のURL参照）を基に説明。

(<http://www.pref.kochi.jp/~zaisei/joukyou/pamphlet/H20zaisei.pdf>

<http://www.kochinet.ed.jp/kinnyuupurangaiyou.pdf>)

座談会

【県内の自主防災組織の現状、草刈りを県で業者に委託する考えはないか、仁淀川沿いの県道脇のゴミ対策、トンボ公園化に伴う道路及び駐車場への県補助金】

Aさん：日高村の消防団の現状は、全国的に消防団員が減少する中、県で消防団員定数確保対策事業モデル地区の取り組みをしていただき、県内40団中5市町村、日高村を含めて100%の団員確保はできている。一方、日高村の自主防災組織はまだまで、7月末現在30%である。そういう中で、県内の現状の取り組みをお聞きしたい。

県単事業を施行されている戸梶川調整池と下流域両岸の草刈り等についてだが、元々草刈りは農業者が作物を水害から守るために行っていた。その後、自治会単位に変わり、昨年まで村と県の補助金等により草刈りを実施していた。ところが、手当金というところに支障があって、今年度は施行しないと言われている。調整池は、来年度完成することになっていて、完成しても下流域両岸の草刈りができていなければ、調整池の目的達成は望めないと考える。そこで、県として草刈りを業者に委託する考えはないかどうかをお聞きしたい。

続いて、環境保全について、年1回村内環境調査を実施して、これまで、県中央西福祉保健所、中央西土木事務所の協力をいただいて撤去作業をした箇所には啓発看板の設置もして、投棄されるゴミの量は減少している。しかし、江尻から能津に続く仁淀川沿いの県道脇にはまだまだ多くのゴミが投棄されたままになっており、河川も近くであり早い撤去が望ましいので、県の今後の対応をお聞きしたい。

最後に、「渋川トンボを守る会」として、国内外研究者にミナミヤンマ県内屈指の生息地として知られている渋川地区のトンボ公園化を昨年から目指して、雑木の伐採、草刈り、水田づくり等に取り組んでいる。21年度に向けて公園の拡張も考えるときに、来園者の安全面から道路の整備、駐車場の確保が最優先となるが、この場合、県の補助金等は望めないものかお聞かせいただきたい。

知事：個別の川とか池という話になるとなかなか私も分からないので、足りない部分は後で担当がお伺いさせていただくか、あるいは文書でご説明をさせていただくが、まず最初に自主防災組織の組織率という話があった。南海地震条例を定めたときに考えたのは、ハードの整備によって防災をすることも必要だが、ただ、ハードはどうしても時間がかかるということと、予算的な制約もあったりする、そしてもう一つ、どんなにハードの設備を整えたとしても、人知を超える地震が起こる可能性がある。まずはソフト面で、しかも発災直後、自衛隊などが来るまでの間に助け合っていくことが、死傷者数などを減らしたりするのに非常に有効だということ

も分かっているわけで、こういうソフトの地域地域の助け合いをいかに進行していくかに力を入れている。こういう自主防災組織の設立の取り組みについて、いろんな補助制度を今設けて、一団体について60万円相当の補助金が出たりするような場合もある。我々も一気に推進していきたいと考えているので、有効にご活用いただければと思う。全県内的には、53.6%くらいの組織率になっているが、非常に高い地域と低い地域があって、特に都市部などはマンションが多かったりするということがあって高くない。地域地域により、津波がすぐ来るかもしれないという地域は非常に組織率が高かったりということもあろうかと思う。引き続きAさんを始め、皆様方のお取り組みをよろしくお願ひしたい。

2番目の戸梶川の草刈りの話だが、今聞いたところによると、非常に予算も厳しいということで、事実上休止状態になっているということのようである。他方で、池が来年度完成するが、草刈りをしていなければ意味がないということなのであれば、それはまたいろいろ考えていかなければならないこともあると思うので、より状況を調べさせていただいてお答えをさせていただきたい。後日これはお答えをする。

村内の環境調査、投棄されるゴミの量の話、ごもっともな話だと思う。こういう取り組みについては、我々土木事務所も協力して、どんどん進めていく。場合によっては違法行為なので、やるべきことはやっていかなければならないと思う。

4番目の公園化に向けた道路のお話については、地域別で産業の振興に向けた計画づくりを行っている。そのときに、金太郎飴のようにどの地域でも同じようなことをやっていたら絶対地域の振興は図れない。地域の良さを活かしきったいろんな取り組みが大切だと思う。そう考えたときに、トンボ公園のお話は素晴らしいお取り組みだと思うが、これをもっと伸ばしていくことで地域振興の核になるという話であれば、それに関連したインフラなどについても、優先的に対応していかなければならないだろうと思っている。地域別の振興政策をどうしていくかという話については、日高村役場の皆様ともよくお話をさせていただく中で作り上げていくこととしている。8月の下旬以降に、ブロックごとの地域代表の方にも集まさせていただいて、民間のお知恵も賜りながらつくっていくというプロセスに入っていくこととなるので、またそういう中で検討もさせていただきたいと思う。

【中小企業の振興に軸足を置いた産業振興】

Bさん:私は父の代から60年ほど、主に県内産の紙を使って様々な2次加工品を作っている。100くらいの商品があるが、すべて県外へ出荷している。今日は製造業というよりは中小企業という立場でお願いしたいことがある。先ほども出た産業振興計画、現在策定されているということで、大変今回は期待をしている。平成3年に高知県工業振興8か年計画というのがあり、計画は立派だったが、戦略に欠けていたということでないかと思う。だが、今回は取り組みが違うなというのを感じる。私は中小企業家同友会の代表理事をしているが、今週の月曜日に商工労働部長さんを始め10名ほどお越しいただいて懇談した。現場の生の声をお聞きいただき、またニーズを汲み取っていただいたので成果が出るのではないかと期待している。かつて商工労働部長さんが我々と懇談するということがなかった。是非具体的な成果につながる戦略、戦術を立てていただきたい。その中で、中小企業の振興に軸足を置いていただきたいなというのがある。企業の99%は中小企業であるし、8割が中小企業に勤めている。高知県を元気にしよう

と思うと、中小企業を元気にしなくてはいけない。企業誘致も大切だし、中核企業の育成も大切だが、雇用の受け皿でもある中小企業の数が増えることのない振興を是非お願いしたい。

知事：産業の振興といったときに、例えば1次産業について言えば、厳しい状況だが、軸足というのが見えてくる。しかし商工業、特に製造業になってくると、かつてもそんなに振興に成功したことがあるのかと言われればないわけであり、日本全体で見ても、あまりそういう例はない。どちらかと言うと、地域で成功した場合というのは、例えばシャープの亀山工場みたいに大規模な工場を誘致してきて、それで一気に関連の産業群ができあがったとかいうことはあるかもしれないが、ただ、そういうことが高知でできるのかというと、まず本州の他の地域に行かれてしまう。厳しい取り組みだと思うが、できる限り絵に描いた餅にしない、実効性のある対策にしようとするべく、今県としても努力をしている。その一環として、いろんな方々のご意見を把握させていただくために、商工労働部もあちこち回らせていただいて勉強させていただいているところで、お褒めいただいたことを知ったら非常に喜ぶと思う。ありがとうございます。今おっしゃったように、中小企業の振興に軸足を置いていくということは非常に重要な視点であるのは間違いないと思う。企業誘致もやっていかなければならないが、その結果雇用が生まれた、しかし、例えば、人事異動で優秀な人を全部県外に持っていかれたとか、その企業から全く県内の他の会社に対して発注がないとか、そういう波及効果がないのでは意味がない。必要だと思うのは、それぞれの産業について、その産業の川上から川下まで、それぞれどういう産業装置があるとうまく製造のラインが流れていくのか、そしてその結果、売り込んでいけるのか。川上から川下まで見渡したときに、今高知の企業ではこういうところがあって、ここが間が空いているからそこに企業誘致をしようと考えたりとか、あるいは、企業が誘致ができたから、その川上、川下について、県内の中小企業にもきちんと行き渡るように、マッチングするための支援を図っていくなどという取り組みが必要となってくると考えている。もう一つは、逆に言うと、中核企業などを大切にするという事は、逆企業誘致みたいなもので、出て行かないようにするという事も非常に大切だと思う。中小企業について言わせていただくと、やはり県内での地産地消の売り込み、県外での地産外消の売り込みにしても、地域の特産品をいかに売り込んでいくのかということが、他の関連産業との関わりという点でも大きいだろうと思っている。1.5次産業とか食品加工といったときに、地域の素材にその素材の良さを活かした加工を加えて、プレミアムとストーリーをつけて外に売っていくという取り組みが必要だと思っていて、それを進めていくべくプランを練ろうとしているところである。後で、1次産業の加工の関係で、関連の話を申し上げさせていただけると思うが、企画段階、販売段階で、ソフトの支援にもっと力を入れられないかということも考えている。各企業のご事情によっていろいろフェーズが違ったりもすると思うが、いろいろと考えていきたい。

【自治会への草刈りの委託の継続、防災に関するビデオの貸し出し】

Cさん：自治会の役割という基本にかかわることを述べさせていただいて、そのあと知事さんに二つくらいお願いがあるので、よろしく申し上げます。

まず、自治会の歴史を見てみると、戦時中自治会は行政の末端組織として法的に位置付けられていて、行政補助団体として利用されてきた。戦後、民主主義の障害になるという理由で地

方自治法施行と同時に、自治会の解散命令が出されて、現在は法的な拘束もない自由な任意団体に位置付けられている。しかし、本来自治会は地域の共同的、公共的な、重要な任務を帯びているので、その任を果たさないと自治会の存在する意味がなくなる。そのために行政とのかかわりのあり方が重要になろうかと思う。これは自治体問題研究所の見解だが、「行政と自治会は対等なパートナーとしてお互いに自立した立場で住民の生活向上と地域の発展のために協力し合う関係である」と、正にそのとおりだと思う。ここで言われる自立、そのためには財源が必要である。今、Aさんがおっしゃったことと矛盾するような発言になるが、今県が外部委託事業として県道の草刈りを地域自治会へ委託している制度、私は大変ありがたい制度だと思っている。これには二つメリットがあり、一つは地域に貢献する心が育つ、二つ目は自分たちの手で自分たちの地域の環境が良くなるという満足感、喜びも得られることである。したがって、これからも外部委託を自治会に広げていただくようお願いをしたい。

もう一つ、消防団の立場でAさんからお話があったが、私は地域自治会という立場で言わせていただくと、今自治会の中での自主防災というのが重要な課題、問題になっている。近隣住民の命を守るために重要な組織づくりが急がれている。名前だけの組織を作るのは簡単だが、いざというときに役に立たなかったら意味がない。役に立つ防災組織を目指しているが、何分住民の関心が今一つである、そこで、防災研修用で臨場感のあるビデオとか、それが貸し出し用などがあれば、大変ありがたいがどうでしょうか。あるようなら、どのような内容のものがあるか、ないようなら、検討していただくわけにはいかないだろうか。

知事：最初の外部委託を進めるという話についてだが、これは多分いろいろなタイプ、例えば調整池みたいな、非常に生命・財産にかかわるようなものは、対応も違ってくる場合もあると思う。同じ調整池でも大丈夫な部分とだめな部分というのもいろいろあつたりすると思う。今おっしゃったような、皆様方の手で進んでいくことに対する達成感の話とか、それから地域に貢献する心が養われるという話はごもっともだと思うので、すべてを（自治会に委託は）できないと思うが、進められるところは進めていくということが大切だと思っている。実は財政的にも比較的安価であるというのもあって進めたい、ただ他方で、やはりそれでは対応できない部分もあつたりすると、なので、両睨みでやっていくというのがこの外部委託の考えのようなので、そうしたいと思う。

2番目の自主防災組織の関係では、確におっしゃるとおり、組織ができたというだけではだめで、また、できる前の段階で危機意識を高めていくことが非常に大切なのだろうと思う。各種（ビデオ等を）持っていて、貸し出しさせていただいたり、あるいはダビングしていただいたりできる制度になっていると思うので、後日、より具体的にお伝えさせていただきたいと思う。まだまだ災害の恐さの徹底を図っていかなければならないと思っている。例えば、津波などでも、津波は1回しか来ないとか、それから津波が来る前には必ず引き潮が起こるとか、これはいずれも不正解である。だが、これを正しいと答える方がかなり高知県にはいる。1回目の津波より2回目、3回目の方が大きい場合もあるし、引き潮がなくていきなり津波が来る場合もある。津波にしてもそういう状況であり、いろんな防災の知識を普及していくことが大切になってきている。今回定めた南海地震条例には、県、市町村はどういうことをする、住民の皆様はどういうことをしていただく、自衛隊、警察は（こういうことをする）というそれぞれ

れの役割を定めていて、そういう中で、教育をどう図っていくかという話などについても、役割を作っている。役割分担を定め、具体的に実行していく段階に入っていて、Cさんがおっしゃった話はごもっともだと思うので、前向きにやらせていただきたいと思う。

Cさん：ありがとうございました。ビデオの場合、貸し出しはどのような方法になるでしょうか。

知事：地域支援企画員からお伝えします。

【個人情報保護への過剰反応と支え合いのネットワークづくり、日高村に24時間・365日体制の病院ができないか】

Dさん：社会福祉協議会事務局のDです。日高村社協は昭和54年に社会福祉法人の認可を受け、設立した法人である。平成3年度に国が行うふれあいのまちづくり事業の指定を受けたことをきっかけに小地域ネットワーク活動に取り組み、今では毎年2回、5つの地区でネットワーク会議を開催している。その中で、一人暮らし高齢者の方や障害のある方、支援を必要とする方々への支え合いの活動を推進してきたという経緯がある。特に平成15年からは防災を視点にした支え合いのネットワークづくりに取り組んできたが、地域のいいところ、悪いところ、課題、避難所はどうか、避難経路はどうかということもマップを作って確認するというような作業をする中で、一人暮らし高齢者だけではなく、認知症の方や透析を受けている方、在宅酸素療法を受けている方、重度の障害のある方の生活をどうやって支えていけばいいのかというという問題が提起され、福祉だけでなく、保健、医療、福祉の連携が必要であるということになってきている。その話の中で、課題として出てきたのが、個人情報保護の壁である。人は、たとえどんな困難や不幸に直面しても、人と人との交わりの中で強く生きることができ、頑張れるものだと考えている。しかし、個人情報保護の過剰な反応があるがゆえに、人と人との間に疎外感を生み、力を合わせなくてはいけないはずなのに、仲間づくりを阻むというような現状も感じたことがある。住民主体の支え合いの活動による安全・安心の村づくりにスムーズに取り組んでいくために、どうやれば個人情報保護をクリアしたい支え合いの体制ができるのかを今日は教えていただきたいと思う。

もう1点、5つの基本政策の中の話と重なる部分もあるが、日高村は豊かな自然と厚い人情に恵まれ、交通の利便性もいい立地条件だが、高齢化率も31%を超えるという現状でもある。その中で、唯一の不安は日高村には24時間・365日の診療体制を整えた病院がないということである。今診療所があるが、月曜日から土曜日の18時までということで、その後は往診も頼めない状況である。日高村でこの先、安心して暮らし続けるためには、いつでも受診ができて、夜中でも往診してくれるお医者さんがいてくれたらよいと思うが、具体的にどういう方針をお考えなのか教えていただきたい。

知事：最初の話は、確かに本当に具体的に考えていかないといけない。認知症の方はどうするか、重度障害者の方はどうするか、透析の方はどうするか、透析の病院はどうするかということを考えていかないといけないので、かなりきめの細かい話だと思う。今我々がやろうとしていることは、実際に大規模な災害が発災した直後のしばらくの期間が一番危険な期間なので、

そこでどのような対応を取っていくべきなのか、かなりきめ細かい対応プランを作ろうとしているところである。いくら災害を逃れても透析ができなくなれば、結局命に関わるので、そういう対応をしていこうと考えている。その中で、特に要援護者の見守りネットワークの再構築というような話は、我々も地域ケア体制整備推進事業などの事業を持っているので、それらで補助金等においてバックアップさせていただく形になっていると思う。ネックとしてよく言われる個人情報保護法の話、これは謎な部分があって、本来は本人の同意があれば開示できるはずである。ところが、運用でそうになっていない。まず、本人の同意があれば開示できるという事実が知られていない場合がたくさんある。そしてもう一つ、本人の同意があれば開示してもいいと役所側が分かっていないという問題もある。どうしても本人の同意が得られない場合は仕方がない、これは個人情報として守らなくてはいけないということだろうと思う。この場合は、隣近所の皆さんに支えていただくという対応しかないのかもしれない。ただ、本人の同意があれば開示できるのに現実的にクリアできていないという問題は、多くのところで言われているので、全国的な問題ではあるが、よく考えてみたいと思う。それから、法などの解釈について、できるだけクリアにしておくことが大切で、それによって、この場合はこう、あの場合はどうという問にすぐ答えが出せると思う。多分そうになってなくて、全部きつい方に解釈が流れて、執行もそうになっているのではないかと考えているので、そこはよく見てみたい。

地域医療の問題では、今高知市以外のところでは、例えば安芸圏域全般とか、高幡圏域全般とか、幡多圏域全般とか、そういう市町村を越えた大きなブロック全体で、産科とか小児科とか救急関係のお医者さんが不足しているという状況にある。一番理想なのは今おっしゃったように日高村にも24時間体制の病院ができることだが、現状では、市町村単位ではなく高幡地域とかいう単位でも十分確保しきれていない。なので、まずは大変恐縮だが、それぞれの医療圏での救急体制の整備などに力を入れさせていただきたい。例えば、安芸医療圏は安芸、中芸、室戸などが全部入るが、あそこは今救急医療と言ったときに、2次救急の方も診ることができない。救急には1次救急、2次救急、3次救急があるが、3次は本当に大変な人（を対象とした救急医療）、2次がいわゆる普通の救急患者さん、救急車で運んで大急ぎで連れて行かなければいけない人、1次というのは比較的軽微な方である。この中で、2次の方も安芸圏域の中で診ることができず、全部高知医療センターまで行かなければならないという大変なことになっている。これを今、安芸病院や芸陽病院の見直しの中で対応できないかという話をしている。これと同じような状況のところが地域地域にあり、地域の医療圏でそれぞれ2次救急まではしっかりとできる体制づくりを行うために、施設の整備とお医者さんの確保に努力しているという状況である。そして、本当に大変な方をできるだけ早く搬送していく体制を作っていかなければならない。一つは、救急車とかを含めたいわゆる消防体制・救急体制の充実を図っていかなければいけない。ところが、地域地域で財政的に厳しくなっている結果としてなかなか消防車などを更新したりできなくなっているというのが現実である。だから、これをどうやって、近隣で協力して、救急車とかの更新を着実にできるようにするかというのを考えていかなければならない段階にある。もう一つ、高知県の場合、道が悪い。ゆえに命の道ということで、道の改修を図るべく努力しているが、どうしてもこれは時間がかかる。一方で、少しでも早く救急体制を整備したいということ考えたときに、ドクターヘリという手段がある。この導入を、議会でお認めいただけるかどうかという問題はありますが、少なくともどういうことをやればでき

るのかということについて、真剣に検討しなければならないということで、内部的には勉強を始めている状況である。

【日高村、高知県のイメージアップ】

Eさん：イメージをすごく自分は大切に考えている。経営をしていて、お店のイメージというのを、いろんな要素があるが、それを大事に考える。日高村も何とか今よりずっと良くしたい、そのときにイメージアップをどのようにしたら日高村が良くなるか、同じような手法を続けていくと、多分高知県もイメージアップするだろうと思う。イメージがいいと、言うまでもなくいろんな有利なことがあり、物事がうまく運んでいくと思う。イメージアップに二つキーワードを選んだ。一つは「景観を大切にする」。二つ目は「デザインの力を知る」。景観を大切にするというのは、例えば、国道33号を走っていて、日高村に入った途端に、「日高村ってちょっと違うな」と。野立て看板が全然ない、そしてそこに木が立っているという感じである。道路も整備され、走っていて気持ち良く感じると。「日高村ってあの辺りいいよね」と言われるようにしたい。そういうふうになると、「日高村で取れたシュガートマトだけどうですか」と言うのと、「日高村のですか」とすごく値打ちが高くなる。ちょっといじわるな話をすると、知事が小村神社前駅のテープカットに来られていたが、私はあの駅ができたときにがっかりした。あそこは千本杉というところだが、鳥居をくぐって、参道の両側に杉の並木がある。杉の並木を数えたが1000本はなかった。500本しかなかった。でもその奥に社があって、その屋根にそびえるような大きな千年の杉がある。だからもう千本杉をやめて、千年杉でもいいかなと。社もなかなか立派で、ご存知のように国宝の刀もある。しかし、日高村以外の人はほとんど知らない。例えばあそこに駅ができたときに、マスコミ報道がされたと思うが、それが次のきっかけになりうと思う。しかし、周辺など誰も意識してつくっていない。伊勢神宮のおかげ横丁みたいにはと言わないが、ちょっとした工夫をして、村で何か計画があるときに、日高村は景観とか美観を少しでも良くしようとして取り組んでいるという状況になれば、そしてできればそこに補助金があったり、いろんなデザインを相談する窓口があればと思う。「功名が辻」があって県外の人 came が、来た人が「高知はなかなか良かったよ」と言って、去年も今年も来ていないといけない。再来年も多分「龍馬伝」で観光客が来ると思うが、このままでは次につながらないと思う。来た人が、家に帰って、近所の人に話をして、大河ドラマは終わったがまた行ってみたいくなるようなところにするために、景観を大事にしてほしいと思う。そういう中で一つ、日高村の中でポテンシャルのあるところ、魅力をすごく秘めているいいところがある。先ほどから調整池と言っているが、こういう呼び名もよくない。メダカ池というかわいらしい名前がある。もっとスケールの大きい名前がいい名前があればそれもいいと思う。「調整池に行ってみませんか」と言われても誰も行かないと思う。いいイメージをみんなに膨らませてもらえるような池、あまり費用がかからなくて、すごいところになって、県民の人たちが気軽にそこに来て半日楽しんだりすることができるような案がある。これはまた機会があれば、自分がスケッチでも書いて知事にも提出させてもらいたいと思う。よろしくお願いします。

知事：景観とデザインの力というのは本当に大きいというか、コンセプトがあって、売りがあって、それが目に見える形になっていることが重要で、また、それがあからこそリピーターの

人ももう1回来ようという気持ちになるのだろうと思う。このイメージ、そして景観の話について言えば、おそらく高知県は自然的にそういう素晴らしい、いかにも高知らしい景観をたくさん持ったところだと思う。例えば桂浜、いかにも坂本龍馬らしい、そしてそこに銅像を建てたというのは、さすがの当時の方々の先見の明だと思う。そういうものを活かしていく、地域地域で、その地域のイメージを熟知しておられる方が頑張り取り組んでいかれることがすごく大切だと思う。もっと言えば、私は県全体として、高知県と言えば何々と言えるようなストーリー、キーワードみたいなものをどう見つけ出していくのかということについて今いろいろ考えている。産業振興計画の話先ほどからさせていただいているが、そのキーワードが先にあってその分野だけしかできなくなってしまうということであってもいけないので、いろいろ考えていく中で高知県全体版を見つけ出したいと思う。小村神社前駅のデザインは、確かに全国的であるが、パークアンドライドがあったりすごくいいところもあると思うし、また、小村神社の前に駅があるということで、神社自体に多くの人を訪れてくれる機会もできて素晴らしいと思う。例えば大刀のお話が今あった。赴任地だった埼玉県行田市では、古墳から国宝の大刀が出てきたので、古墳とセットで大刀を売り込んでいる。そして博物館がある。周辺環境や意匠に用いたりして徹底してその大刀で売り込んでいる。日高村さんも全国的に素晴らしい唯一の絶対の価値を持つようなものをお持ちなので、それを活かされたらと私は思っていたが、しかしながらご神体だそうで、ご神体ともなるとやはり一定の限界があるのかもしれない。ただ、もう1本の大刀は入っていた碑銘の内容がすごいということで国宝になっているが、こちらは保存法が世界でも稀有であって、さらにデザインも素晴らしい、ある意味奇跡的な大刀である。そういうものを活かして景観、デザインにつなげていくということにより、まちづくりを図っていくという方向性というのは、そのとおりではないかと思う。そういう地域地域の取り組みに我々としてどうバックアップできるのかということだと思う。

大河ドラマ関係の話は、正に我々が今、心していることだが、功名が辻が終わって、その反動でお客さんが減ったというのは、いいことでないのは当然で、難しいことではあるが、リピーターを確保できなかったということである。功名が辻のときは、日帰りのお客さんが多かったというのがあるそうで、今は泊まっていただく観光をやろうとしているわけだが、観光上のリピーターをしっかりと確保するために大切なことは、見るだけのところには人は2度目はあまり行かないが、いわゆる良い体験をしたという人は必ずもう1回体験をしたいと思ってリピーターとして来てくれるそうである。だから、高知の、それぞれの地域の良さを活かした体験を入れた、いわばちょっとした感動を入れていく形の観光にすることによって、リピーターも確保できるような観光地にしていって、そういう作り込みをしていくことが一つの方向性だと思っている。「龍馬伝」では、坂本龍馬を始めとするいろいろな景勝地もある、それを検証する施設もある、いろいろ歴史を学ぶという体験もすることもできるとか、また、川では、例えば四万十川は上流から下流までまるごと体験することができると思う。上流では源流の地を楽しむ、中流からはカヌーを体験する、途中では非常に広大な菜の花畑がある、途中で上がってアユを食べる体験をする、最後にはのどかなところを川下りしていく体験をする、場合によっては海から出てクジラを見て足摺岬まで行くという体験をしてもいい。幸い今、「花・人・土佐であい博」で地域地域でいろんなイベントをやっておられる。成功した例もあれば残念だった例もある。だが、であい博で、地域の観光資源というのを磨き上げていくために今後どうしていくか

という知恵がどんどん地域に生まれていると思う。それを活かしていく、龍馬伝につなげていく、そういうふうになっていけば素晴らしいなと思っている。

Eさん：道路沿いの看板はどうでしょうか。

知事：その地の景観として、ない方がいいという地域、ない方が景色にマッチする場合は、できるだけ整理した方がいいだろうと思う。だけどそれぞれの地域のまちづくりのプランによると思う。看板がたくさんあった方がお店にたくさん入ってくれていいという地域もあると思う。小村神社に行ったときに素晴らしいと思ったのは、500本とおっしゃったが、杉の向こうにずっと田園が見える、逆に言うと、田園側から見たときに杉の並木が見えますよね。ああいうところは今どき珍しくて、昔がある意味残っているという感じがして、素晴らしいなと思った。最終的には地域地域の人の選択ではないでしょうか。

【販売単価上昇への取り組み、環境に配慮した農業政策】

Fさん：私は日高村でシュガートマトを作っている。県、国の補助の事業をいただいて2ヘクタールほどで始まった産地がここ5～6年で7ヘクタールという高知県内でも屈指の産地になった。もう9年目が来るが、そのころは重油が1リットル40円だった。それが本日多分130円を超えていると思う。そのころからトマトの価格はプラスではなくて、年々マイナスである。その中で、重油がもう既に3倍で、12月の油を入れるときにはひょっとしたら150円から始まるのかなと思っている。これは他の市町村でも同じようなご意見が出て、いろんなお答えもされていると思う。また、施策として、それに対する設備の投資の部分の補助なども考えていただいていると思う。現状では、生産者側は、その施策にのっかって半分の補助をいただいても、残りの半分を支払っていくことが限りなく苦しいという思いがある。今、高知県は野菜王国で、全国一が7品目も8品目もあると思う。しかし、今のままだと王国が2～3年先には危ない。ここを乗り越えるためには、何とか園芸連さんと県の園流課がタイアップをしていただいて、県の職員、園芸連の職員が必死に、1円、2円の上積みの努力をここ1～2年間、本当にやっていただかないと3年、4年先は全く見えてくるように思えない。できるだけ販売単価を上げていただき、これに1年間か2年間、ずっと必死になってやっていただきたい。そのためには、半年経ってチェックをするという体制ではなくて、毎月毎月チェックをして、またそのことを開示して、報告していくというようなシステムもあっていただきたいと思う。

あと1点、県内全体でエコな農業で進んでいくべきだと思う。そういう中で、この重油の高騰という部分を、今後は電気に切り替えていくべきではないかなという思いがすごくある。日高村も産廃を逆手に取って、環境立村というような形で、できれば太陽電池的なものとか、風力発電的なもの、そういうことがどうすればできるか。やるかやらないかは別としてそういうことも考えていってはどうかと思う。今後は日高村の農業の充実を図っていくためにも、環境と抱き合わせにして、県の補助事業もそういう形に進むようにできないか、よければお答えいただきたい。

知事：まず2番目の方から。おっしゃるとおりで、重油以外で何か考えられないかというのは、

木質バイオというのもある。ただ、窯の規格も統一できていないというような課題もあるが、これはこれでやっていきたいと思う。原油価格が仮に、遠い将来か近い将来か分からないが、下がり始めたとしても、混焼とかいう形で使えるので、考えていかないといけない。もう一つ、電気で電熱線を使ってそれに温風でということも考えられなくもないと思う。この間そういうアイデアがあるというのを聞いて、今、部で研究し始めたくらいの段階ではないかと思う。ただ、どれだけ普及できるかとかいう課題も出てくるので、また勉強してお答えをさせていただきたいと思う。

1点目の販売単価を上げるために必死にやれということだが、おっしゃるとおりだと思うので、これは必死にやる。とにかく産地間の競争が非常に激しい。例えば茨城県、工業は全国7位くらいの工業国であるにもかかわらず、農業産出額全国第3位である。近郊農業でものすごい勢いで攻めてきている。さらに言えば、ある県のJAのホームページには、高知のピーマンを駆逐すべしなど書いてあったりする。私はあまりの過激な表現にびっくりした。産地間の競争が激化しているが、高知県はどうなのか。いろいろご議論があると思う。一概には言えないが、大切なのは産地のまとまりをいかに確保していくかということではないかと私は基本論として思う。2つの流れで出て行ったものが、市場でお互い値段を食い合っているということが出てくる。タイミングの調整や量の調整ができないという問題が出てくると、結果としてお互い値を下げていく。これが非常に残念である。だから、値をしっかりキープしていくためにはどういう流通体制であるべきかということを考えないといけない。ただ、これは産地の問題としても考えないといけないと思う。これが第一。次は、品質がいいということで、安全・安心は当たり前と言われるので、さらに健康にも良くておいしいというような、IPM技術とかから始まって、さらにはもっと先にいく技術もあると思う。そういう良い製品を作っていくということが2番目。もう一つは販促で、例えば園芸連さんとかJAさんとかでも、こうち野菜体操などで一生懸命売り込みをされている。それと別の方向を向いてPRするのではなくて、同じ方向で共にプラスプラスの力でバックアップができるような販促体制をどうやっていくかということは今勉強しているところである。とにかく、園芸が足元から崩れていってしまったら高知県は大変である。大きな強みの柱が倒れるということになる。それはもう一生懸命頑張りたい。ただ、県庁も必死になって考えているが、地に足のついていないところがあるといけないので、またいろいろとご指導を賜りたいと思う。

～休憩～

【特定非営利活動法人日高わのわ会の取り組み、ストーリーがある場所を作ることによる地域振興】

Gさん：わのわ会のミッションは、歳を取っても障害を持って、その人らしく暮らせる日高村を目指してということで、元気に働く喜び、人と交わる喜びをみんなと分かち合うということをもっと、障害のある方やいろいろな事情のある方たちと一緒に活動をしている。会員が60名、その中の35名が就労している。就労の仕方には、週に1回、午前中だけとかという形もあるが、それぞれそこに役割があって居場所がある。ライフスタイルに合わせた就労と営業ということで、困りごとを仕事にするコミュニティ産業を開発して展開している。生活の質の

向上であったり、自分の役割を自分で見つける場であったり、その人がその人らしく生活していける地域を目指して、行政と共同で行っている。ライフスタイルに合わせることで、障害者の支援という言葉でまとめるのではなく、一緒に仕事をするということができないのではないかと考えている。資格を持った人もいない中で障害者の支援を行っていて、障害者の自己決定などの部分でいろいろ矛盾を感じながら、質の向上を目指して頑張っている。ライフスタイルの多様化に合わせて働けるという部分で、ニートやDVなど、いろいろな事情のある方が出て来て、対価を得て働ける、生活の質を上げていける場所を日高村で提供していけたらと考えている。今日食べていただいたトマトのソースだが、トマトがなくなると困るので、農家の方には規格外のものを回していただいて、就労の場を日高で増やしていけたらと考えている。

もう一つ、日高で生まれて日高に育ったので、日高が大好きで、小村神社前駅もできたので、エコサイクルセンターから仁淀川を下って、川を体験しながら小村神社前駅まで来て、小村神社前駅から車で帰るといったツアーなど、川の駅というの（アイデアも）出させてもらったことがある。その川の駅を外部委託ではなくて、シルバー人材センターや老人クラブなどの地域の力で支える仕組みができたらと考えていた。それがどうなったかは分からないが、EさんやFさんのように、日高をどうにかしたいという思いがあったら、ストーリーがある場所をどこかに作っていくべきではないかと思う。

知事：わのわ会の活動は本当に素晴らしい取り組みだと思った。ライフスタイルと合わせた場とすることで、障害者の方たちとも共に働くとおっしゃったが、そういう場を作っていくことこそ、本当の意味で障害者の方々の社会参加などを実現できる道だと思う。今、障害者自立支援法の関係で、低所得者対策が臨時対策になっているのを恒久化すべきという話が出ている。我々ももう少し踏み込むべきだと訴えたりしている。もう一つ、障害者自立支援施設の規制緩和についても訴えている。各機能ごとに職員必置規制が置かれているが、高知のような場所では、必置規制に従うと採算が合わず、民間事業者さんの参入が進まない状況である。小規模でも多機能施設というのを規制緩和でできないかということも訴えている。わのわ会では、障害者の方も、小さいお子さんも預けられたりと伺ったが、そういうふうに、一つの場でいろいろな方と触れ合え、交流することができる、子育て支援もできるという場があるのは本当に素晴らしいことだと思うので、よく勉強させていただいて、今後活かさせていただきたいと思う。

トマトの話で、1.5次産業化の話をしていただきたい。大規模な1.5次産業化では、例えば馬路村が村ごとやって大成功している。馬路村は県内で唯一、町おこし村おこしによって若者の人口が増えているところで、若者も残っているし、むしろ県外からも来るようなところになっている。これは素晴らしいことだと思う。また、大規模なものだけでなく、例えば、私は田野町の田野駅屋の取り組みを聞いて素晴らしいと思った。田野駅屋という売場ができた結果として、高齢の方が自家消費として作っていて、消費し切れず捨てていた白菜を漬物にして田野駅屋に出すようになったそうである。それによって、毎日、現金収入が入ってくる。1日500円入ってきて、1週間で2500円、1か月で10000円になる。ゼロから10000円というのは大きいことだと思う。そういう地域地域で取り込まれる1.5次産業というかちょっとした加工というの必要だと思う。そういう小さな取り組みが県内に広がっていくことが、県全体の経済を少しでも浮上させていくことにつながるのではないかと。ただ、そのためには、

売場がないといけない。直販所などをもっと効率的にできるかということが大切だと思う。そして、さらにもう一歩進んだ、ちょっとしたビジネスのようなお取り組みについてどうバックアップしていけるか、これが本格的にあちこちで花開いてくれば、本当の意味で経済は浮揚していくのだろうと思う。ただ、これはあるセミナーで言われた話だが、1.5次産業とか加工品とかを作ろうとしたときに、売れないものばかりできてくるそうである。なぜかと言うと、「うちの地場の物を加工して作ったのだから売れるだろう」という、いわゆる生産者側の都合の考えからである。それは消費者にしてみれば関係ない。逆に言うと、企画段階から、消費者側の視点で、こうすればもっとうまくいくのではないか、こういうものを消費者は欲しているのではないかといったアドバイスを得られるように県として支援することができないかを考えている。トマトソース作りにはシェフさんにアドバイス受けられたとおっしゃっていたが、シェフさんは消費者側の視点をご存知であり、だから成功していると思う。そういう企画段階での支援がまず第一である。次に、販売段階の支援をどうやって行か。一つ目は地産地消で直販所をもっと効率的にできないか。直販所で、午前中は棚いっぱいだが午後になると空っぽになるということがあると聞く。実にもったいないので、午後にも棚に商品が入っているような効率的な流通のあり方を考えていきたい。また、給食とタイアップするということも考えられると思う。もう一つ、地産外消では、都会にどう売り込んでいくか。販売促進で、アンテナショップなどを作るというのもあるが、ITを利用して売っていくことも考えなければならない。県でサイトを構える、あるいは有名なサイトとタイアップして、それを皆さんに使っていただくようにするといったことが考えられないか今模索している。企画段階、そして販売段階、これはソフトの支援で、そんなにお金のかかることではないと思う。高知県はお金がないので、知恵を使ってバックアップしていく仕組みだと思う。その中間にあるのが、設備を作ることに對する支援。これはある程度成功すると見込まれるものでないといけないとは思いますが、特に成功の確率が高いものについては、そういうことも考えていかなければいけないと思っている。こういう3段階の支援で、いろんな地域の新しい食品加工などの取り組みをバックアップしていきたいと思っている。Eさんの取り組みをお伺いしたが、その中でご苦労をされたこと、例えば、加工食品の裏に貼るラベルの書き方にいろいろ苦労されたということについて、速やかにアドバイスできる体制ができていれば、ずいぶんお取り組みは早くなるだろうと思う。いろいろとご苦労された体験などを是非我々も学ばせていただいて、今後のソフトの段階での支援策づくりなどに活かさせていただきたいと思う。後で地域支援企画員にもう一回勉強させたいと思うので、是非いろいろ教えていただきたい。

【子ども一人一人に接する先生の育成、通学路の拡幅工事】

Hさん：教育の観点から二つほどお話ししたいと思う。先日新聞でも拝見したが、県では単元テストを行ってそれぞれの科目での学力の向上を検証していくというようなことで、県もそれなりに取り組んでくれていると思うが、テストだけに偏ってしまうと怖いなと思うところがある。日下小学校は200人不足の中規模の小学校で、先生方もベテランから若い先生、優しい先生、厳しい先生、いろんな先生がいるが、中でも厳しい先生が子どもの学力を伸ばしているなど私は実感している。実は、私の子どもが見てもらった先生がその厳しい先生だったが、子どもの勉強に対する取り組みの姿勢がその先生になって突然変わったということがあった。た

だ、クラス全体（の学力）を上げるよう邁進していたのではないかと思うので、子ども一人一人を見てほしいなと思った。学級運営を可もなく不可もなくやっていく先生にはそういう先生がいるが、それでは今ひとつ学力も上がらないのではないかなと思う。これからは、新しい先生を採用するに当たり、また、今おられる先生を指導していくに当たり、県教委として、一人一人の子どもを見られる先生を育ててもらいたいと思う。また、情熱を持って子どもに接してもらいたい。厳しいながら、子ども一人一人を見つめるような先生をこれから育ててもらいたいと思う。

もう一点、通学路のことで、日高村の中心街は歩道がないが、聞くところによると、自治体の中心地で歩道がないところは、日高村以外なかなかないそうである。知事が会場に来られるときに、国道から信号を左へ曲がって（県道谷地日下停車場線を通して）来たと思う。あそこは通学路になっているが歩道がない。また、奥で調整池の工事もある、大型車両も入ったり、また、通勤の車も通ったりと交通量も多いところなのだが、歩道がないために、子どもが危険である。PTAからも再三、拡幅工事の要請はしているが、まだ具体的にはなっていない。県道も通学路が十分に確保できるような工事をしてもらいたい。

知事：2番目の道路の話だが、そちらの方は前向きに対応している。国とも協議を要する事項なので我々だけでは決められないが、20年度から24年度の間は整備事業として入れられるよう、21年度くらいから県道も含めて何とかできないか協議している。村長さんからもこの間市町村長会で厳しくご指摘を受けていて、国にも言い、国でできるということであれば、県でも優先的にやっていくという感じでやりたいと思う。

1番目の話は、単元テストが有名になって、誤解を招いてはいけないが、単元テストをやって確認をして、学力の定着状況を見ていくということである。特に数学について言えば、最初のことから分かなければ次が分からなくなったりする。なので、単元ごとにきちんと理解を積み上げていこうというのが本来の趣旨である。先ほど申し上げた、「 $-5 \times (-6) + 3 = 33$ 」という計算は、基礎的な問題の反復練習さえしっかりしていたら簡単にできるようになる問題である。考えてみると、小学校のときは宿題でドリルを何度も家でやらされるが、中学になったらそれがなくなり、反復練習をあまりやらなくなる。それを、中学生でも、少しでも多く反復練習できるようにするシステムを作りたいというのが一連の考え方である。もう一つ、おっしゃったとおり、一人一人の子どもが学力が上がっていき、結果としてクラス全体が上がっていくということではないはずだと思うので、一人一人の個性を大切にする、また、情熱を持った教員を育てることが大切だと思う。今年は初めて、教員採用に当たって、応募された方々に対して、どういう教師像を求めるかという説明をした。ただ、一人一人の子どもを大切にしようとしたときに、学校によって事情は違うと思うが、担任の先生が、特に高学年になればなるほど、生活指導上の問題などで苦労している。また、小学校低学年では、机に座らないということで苦労しておられる。今考えているのは、学力向上を学校の中で指導していく専従チームのようなものを学校に派遣して、しかも1年間なら1年間、常駐するようにして、学校の担任の先生を共にバックアップしていくようなシステムを作れないかということである。学校の担任の先生が生活指導上の問題を見ていて、どうしても目が届かない部分をそういう組織で、学力向上という観点からバックアップしていく。今までも指導主事というシステムがあ

って、先生が先生を指導して帰るということをやっていた。でも、学校の実情も分からないで先生を指導しても、あまり効果が上がらないのではないかと、一緒に子どもたちの顔も見ながら、先生の教え方をきめ細かく見て教えたほうがより効果があるのではないかとということもあって、常駐してもらって共に考えるという体制が作れないかなと考えているところである。緊急対応として、今の子どもたちの学力が大変な状況になっているので、思い切って教職員、あるいはOBの方も含めてそういうチームを作って、先生側の人の投入量を増やして対応するということを今考えようとしている。また結果をみて、随時いろんな改善を加えていきたいと思っている。また、放課後子どもプランや放課後子ども教室といったものをまず全県内の小学校で作ろうとしている。ただ、これが、子どもたちの勉強をみることができるところと、単に居場所だけ作っているところがあって、完全に揃っていない。全部、放課後の勉強指導を含めた対応ができる場にさせていただきたいと思っている。そういう中で、保護者の方や、民生委員さん、児童委員さんなど、いろんな地域の方にご協力を賜らないといけないと思っているので、その場合は是非ご協力をよろしくお願いします。

【教育は子どもたちの目線で、県の状況についての県民の把握、座談会の継続】

Iさん：高知県の中学生の今のこういった実情に対してだが、視線がどうしても親の視線になっているのではないかと。子ども自体がこの状況を理解しているか、危機感があるのか疑問である。

また、今パンフレットを見せていただいて、これを見ればほとんど高知県の財政の現状などが分かるが、実際この県の財政について県民の皆さんがどれだけ知っているのか。そして、知事はそれをどれだけ把握されているのか。

こういった座談会、せっかく知事に直接質問ができるので、おそらく傍聴の方の中にも質問をしたい方がいると思う。しかし、実際には時間が迫って、質問できなかったというパターンもあるのではないかと。是非このような場を今回限りではなく、継続していただき、行政との距離を縮めていただければと思う。そうなれば私も自信を持って、県外にいる友達に「今度の知事はおもしろいから帰って来い」と言えるのではないかと思った。

知事：確かに親の目線、管理者目線ということになりがちだろうが、それは気をつけなければならぬ。子どもから見てどうかということを考えないといけないということは確かだと思う。子どもがどう理解しているかという話については、よく新聞を読んでいる子どもなら全国で46位などということを知っているかもしれないが、全体的には全国で見てどうなのかということを知らないであろうし、逆にまた知る必要があるのかなとも思う。ただ、子どもたちの3人に1人は、3年間数学が全く分からない状態で一緒に座っているわけなので、可哀想なことだと思う。その子どもたちが、その立場、自分自身でつらいという意味においては、彼らは今の状況が決まっている状況ではないということは理解をしていると思う。この子どもたちに、「自分で一生懸命勉強しよう」として、「理解したい」と思ってもらうために、大人がどういうきっかけを与えられるかということ、大きな課題であるし、正に今取り組もうとしていることである。もう一つ、子どもが授業が分かっていないはずだということが先生も分かっているはずである。それは教えていたら必ず分かる。しかしながら、先生も子どもも共に3年ずっと分からないでも別に構わないという状況に慣れてしまっているのもまた良くないことではないのかなと思う。

のちに苦勞することとなる。なので、そうならないために、今回あえて学力向上の施策を打ち出している。これで、生徒も先生たちも気づきがあり、何とかしないといけないという気持ちから共に努力するようになっていって、学力も含めて、全体として学校の雰囲気良くなっていくのではないかなと思う。おっしゃるとおり、上から「やれやれ」と言うだけでは確かにいけない。ただ、最初のスタートがどういうやり方かはそれぞれケースバイケースだと思う。

2番目で、県の財政などを県民の方がどれだけ知っているかということだが、今日お配りしているのは、できる限り分かりやすくしようとして作ったパンフレットである。インターネットにも載せている。前に比べたら随分分かりやすくなっているはずだが、おっしゃるとおり、不断の努力をしていかなければならないと思う。財政収支の問題は、かなりテクニカルなところがあって、県の財政がどこまでいったら破綻する、どこまでは大丈夫というのは難しい議論ではあるが、ときあるごとに試算して、議会にも提出して、ご説明をするべく努力している。

(座談会を)今回限りでなく続けるようにというお話だが、いろんな形で続けさせていただきたいと思う。まずは今年度中に県内34市町村を全部回るということでやっているところなので、翌年度以降どういう形でやらせていただくかはまた考えさせていただきたい。

【地域支援企画員制度の存続、高知県食育推進員制度の機能、県として日高村に求めること】

Jさん：実家が、腐食油を精製してバイオディーゼル燃料を作るという事業を開業したことをきっかけに、ものづくり、まちづくり、環境活動に関わるようになった。しかし、私はそれまで日高村から離れることしか考えていなかったの、日高のことを何も知らなかった。そういう私に力を貸してくれたのが、前任の地域支援企画員さんだった。人と人をつなぐ、そして、人とお金を含めた情報をつなぐ人というのが非常に大事で、新しい活動をしたいという人がどうすればいいかというサポートをしてくださる存在が住民以外のところですごく必要だと思った。住民力はもちろんだが、住民力プラスアルファの部分で、地域支援企画員さんがいてくれたことで、多大なる支援を受けた。この地域支援企画員制度の存続を是非ともお願いしたい。もちろん支援員さんにすべてを委ねるということではなく、依存するということではなく、活動自体は住民主体だが、村でもなく村民でもなく、県という立場でこそ支援できることのお手伝いをしていただくことをこれからも切に望んでいる。

あと、私は高知県食育推進員に登録させていただいている。高知県地球温暖化防止活動推進員もやっている。温暖化防止活動推進員の方は、環境活動支援センターえこらぼというところから、いろいろ研修などのご案内が来る。しかし、高知県食育推進員の方は、ご案内もなく、実際に動いているという気配を感じられない。先ほど配っていただいた資料を見たところ、「総合的な健康づくり施策の推進」の中に「食育の推進」が入っていた。そのことについて、高知県食育推進員制度が一体どのように機能しているのかということをお聞きしたいと思う。

最後に、高知県が46位などという低いものの事例が多かったが、旅の情報雑誌である「じゃらん」で、日本で一番おいしいところはどこかという調査をしたときに、北海道、沖縄を抑えて高知県が日本で一番という結果が出た。これはすごく誇るべき結果だったと思う。ただ、そのおいしいにこれから必要なのは、最近特に言われている安心・安全で、それは何に裏付けられるかということ、環境になる。環境と人間の体は切り離すことができない。では、日高村で環境にどのようにアプローチしているかということ、エコサイクルセンターと菜の花エコプロジェ

クトである。バイオディーゼル燃料などを中心にした地域内での資源の循環というところで、高知県における環境の日高モデルというのを私たちが作りうるのではないかと考えている。そして、高知県内で一番安心・安全な命の食の里づくりをしていけるのではないかと。そういったときに、県として、この日高村に何か求めることがあれば教えていただきたい。

知事：最初の住民カブスアルファで外のコーディネーターがいたというお話だが、例えば、言いたしっぺになりがたいというときに、誰か言いたしっぺになることでまとまるということもあつたりするだろうし、いろんなことにおいて外の目というのは必要だと思う。それが、先ほど申し上げた企画段階での外部からのアドバイザーを構えるということ、また、行政的な形で地域支援企画員というのにも意味があると思う。地域支援企画員の制度は橋本知事さんのときに作られた制度だが、私もいい制度だと思ったので、存続どころかむしろ強化している。人数も増えているし、今は地域の振興、産業振興が重要になってきているので、課題について主体的に地域地域と共同していろんな知恵を出す、アイデアを出す、プランを求めるといったミッションを与えることとしたというのが2番目に強化したところ。3番目が、広域的な連携が必要ということから、ブロックごとに総括地域支援企画員という制度を設けて、関係の各農業や林業などの出先機関とも全体的に総合調整できるようにしたというのが3番目である。

2番目だが、食育推進員さんのところに全然お声がかからないというのはどういうことなのかと私も思う。関係の部署に聞いて調べてお答えしたいと思う。

3番目だが、「じゃらん」の第1位は私も知っている。誇らしいことだと思う。こういう良さを活かしていくということだと思う。他方で、私はいつも46位と言った後で必ず1次産業は強みがあって、これを活かしていけば高知はもっと伸びていくのではないかと話をさせていただいているが、低迷しているということについて、「こんなもんだ」とあきらめる感情が出てしまったりはしない、慣れてしまったりはしないと私は常々思っている。もう一つ、おいしいという話について言わせていただくと、素材がいいというだけではなくて、食べる文化も素晴らしいからおいしいわけである。単純に言えば、カツオのタタキはニンニクと一緒に食べるからおいしいが、東京の人はタタキににおい消しだと言ってショウガをつけて食べる。それでは全然おいしくない。今後県外に売り込んでいくときには、素材の良さを売り込むだけではなくて、おいしい食べ方、そういうものを生み出す文化まるごとでいかに売り込んでいくかということをよくよく考えていく必要があると思う。日高に求めることは、日高は、仁淀川を越えて、菜の花、緑の豊かな自然の地域だと思うし、他方で、都市部に意外に近いという特性がある。これらの特徴を十分に活かされたまちづくりをやっていただく、地域おこしのアイデアを出していただくということを是非お願いしたいと思う。地域振興の良いモデルになっていただきたいと思うし、我々にお知恵を賜りたいと思う。

(会場の方からのご意見等)

【企業誘致よりも地場産業の育成を、県職員間の引継ぎが行われていない、土佐市と日高村との合併、県は村に対して丁寧に説明を行うべき、戸梶川改修工事の費用対効果】

Kさん：昭和58年か59年ごろ、地場産業育成ということが県議会で議決されている。本日の資

料を見ると、ニュアンスは違うが、それに似たようなことが書かれている。それに対し、知事は先ほど企業誘致が必要だと言われた。私の考えは、議会が議決したことが地場産業の育成である。それをまず優先してほしい。

次に、調整池の件。私は調整池の地元であるが、県の中央西土木事務所と色々な話をしてきた。そこで、職員が今まで3回程度異動して、そのたびにその話を初めからしないといけない。今に至っては、前任者の言ったことが記録にあるか、県の文書にその協議書があるか、判をついたものがあるかということまで言われる。これは一体どうなっているのか。不信感しかない。

次に、市町村合併で、私の個人的なお願いだが、南の山にトンネルを掘って、土佐市と日高村の合併を考えていただきたい。土佐市にはJRは通っていない、日高村には高速道路がない、土佐市には総合病院がある、日高村には病院がない、日高村に運動公園はあるが土佐市にはない、双方に非常な利点があるので、考えていただけないか。

もう一つ、県の職員対日高村の職員の話。我々村民が日高村役場へ伺いを立てれば、日高村の職員が県に伺いを立てるが、その答えはいわゆる「法律で国の決めたことだから辛抱しなさい、このとおりにやいなさい」ということである。いい例が後期高齢者で、その話をすれば、「国の法律が決まったから今度からはこうなる、あなたたちもやいなさい」と。それではいけないのではないか。いわゆる、日高村の職員が県に伺いを立てたときに、県の職員は県民に説明する視点で村の職員に説明してやってもらえないだろうか。

最後に、戸梶川の改修工事のことで、費用対効果を考えてもらいたい。この工事の着工の1~2年くらい前に、堤防を今より70~80cmくらい上げてもらえれば浸水自体がなくなるという話をした。しかし、当初に決めたことだからできないと頑としてそれを突っぱねられて、それなら仕方がないと言った。最終的には、仕上がった段階で、村と相談して、土囊でも1回積んでみて、それで浸水が防げるなら、その方法を考えたらいいのではないかというようなことである。民間の考えるような視点で考えてもらいたい。

知事：最初の企業誘致という話だが、企業誘致と地場産業育成という話はどちらかではない。地場産業育成は大切であるし、どちらかと言うと企業誘致といっても、そんなに高知には来てくれない。大切なことは、まず地場産業の育成をしっかりしていくこと、そして2番目に企業誘致をするにしても、地場の産業の活性化にも資するような、つながるような、企業誘致を行っていく必要があるのではないかという話を申し上げたところである。

2番目の後任者にかわれば全然引き継がれていないというのは、調整池のような大きな問題では非常に問題ではないのかなと思う。来たばかりで分からなかったとか、個別の事情があるのかもしれないが、いずれにしても、重要案件の引継ぎは徹底するということは当然のことだと思うので、それはよく徹底してまいりたい。

土佐市との合併との話は、それは村長さんともよくお話をしなければならぬし、住民の皆さん全員のご意思というのを確認しないとけない。

4番目であるが、村役場の皆様が村民の皆様方にしっかり説明できるように、県から村役場に説明すべき、それはご指摘のとおりだと思うので徹底したいと思うが、本当に答えが法律で決まっているとしかない場合もあると思う。また、後期高齢者の話をおっしゃったが、我々が

国に対して何も言っていないかということ、決してそんなことはない。私も何度も東京に行って国と話もしてきた。それで、今回政府与党で見直したりしたことの中には、我々の言ったことの6割程度は入っている。ただ、村役場にご説明するとき、自分が村民の皆さんに説明する気持ちになって説明することが大切だと思うので、今日のご指摘を重く受け止めたいと思う。

5番目の戸梶川の話は個別の話ですぐに分からないので、後で説明したい。民間が考えるようなことをちゃんと考えるという趣旨で、厳しい財政事情の中でそういうこともあったのかもしれないが、ご指摘があったことを土木事務所にも伝えておく。

【知事になる前に日高村のことをどれくらい知っていたか】

Lさん：私の他にいないようなので、最後に一つだけ。知事になる前に日高村のことをどれくらい知っていましたか。

知事：私は朝倉周辺に住んでいたのですが、日高村には子どものころによく来ていた。小村神社前でちょうど汽車がそばを通るので、子どものころ、親に連れられて見に来ていた。ただ、正直申し上げて、東京に行ってからしばらくの間はあまりお伺いしたことがなかった。帰省するといっても3日か4日だけなので、高知市だけにいるか、あるいは墓のある土佐清水に行きすぐ帰るかしていたので、残念ながらあまり存じ上げなかった。仁淀川によく子どもを連れて遊びに行っていたので、下流の伊野の方には行っていたがこちらまでは来ていなかった。まだまだ勉強不足かもしれないが、よく皆さんの話を伺って学んでいきたいと思う。

(知事のまとめ)

皆様、本当に遅い時間までお付き合いいただきありがとうございました。

本日、多岐にわたる分野について、いろいろな貴重なご意見をいただいた。私は、1か月と1週間という非常に短い選挙期間で、日高村にも短い時間しか伺わせていただくことしかできなかったが、本日は17時半からなので、4時間以上いさせていただき、そして何よりもすべての時間、対話をさせていただいたわけである。日高村のそれぞれの課題、良い面も、大変な面もお話を伺って、勉強もさせていただいたと思っている。

本日、お伺いした意見は決して聞きっぱなしにしないということで、それぞれプライバシーを守らせていただいて記録させていただき、組織的に今日こういうご意見を賜ったということをお共有させていただきたいと思っている。いただいたご意見を踏まえて今後の県政運営に具体的に活かしていきたいと考えている。詳しくお答えできなかった点については、いくつかのルートを使ってお答えをさせていただきたいと思う。本日は大変参考になりました。今後とも頑張ってください。ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。